

## 第3回地域づくり交流会

### ■昭島市公立小学校校長会■

平成24年9月26日(水)11時00分

昭島市立東小学校

#### ■小学校校長会)

公立小学校校長会：真如むつ子 会長(拝島第三小)  
東小：土屋正登校長、共成小：香積信明校長、富士見丘小：堀 聡明校長、武蔵野小：五十嵐公宣校長、玉川小：岡部操校長、中神小：悴田康之校長、つつじが丘南小：石川博朗校長、つつじが丘北小：河瀬正校長、光華小：佐藤神生校長、成隣小：石井登志枝校長、田中小：高野秀子校長、拝島第一小：濱野裕美校長、拝島第二小：田中淳志校長、拝島第四小：青木知典校長 / 15名

#### ■自治連)

小野正敏会長、嶽山俊夫副会長、宮田次朗副会長、指田準副会長、大野利男会計、黒岩茂顧問、加藤久之顧問、中島岩雄常任委員、細谷自治連事務局員 / 8名 計23名

### ●小野 自治連会長の挨拶

今日は貴重な会議の後、市内の小学校の全校長先生が集っていただきありがとうございます。自治連がこれからやろうとしていることについて、色々話させて頂きたいと思います。

今、力を入れているのは、防災を中心に自治会としてどう対応するかを検討しています。小学校や中学校の避難所運営について、自治連としても、非常に悩んでおります。市や教育委員会でもマニュアルを用意されていますが、それを地域と合体して、学校と地域が自然災害時や緊急時どう対応していくかを、これからも何回かの協議が必要と考えております。今日はその第一歩としていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



### ●真如 昭島市公立小学校校長会会長の挨拶

自治会連合会、それぞれの地域の自治会には、日頃より大変お世話になっております。ありがとうございます。

今回は、こういう機会ですので、全員が顔を揃えられる定例の校長会のあとに設定しました。時間が限られておりますが、出来るだけお互いに顔を覚えて、これから色々やっていけたらと思っています。

東日本大震災後、小学校は一番大きな課題として特に防災について、市教育委員会と連携をとって取り組んでおります。すればするほど学校単独では出来ない。やっぱり、地域の皆様や保護者の方々と、しっかり連携をとってやっていかなければいけないことを、痛切に感じています。

その為にも、情報をそれぞれの地区で違いますが、細かいところまでしっかり出し合って、そして学校としてやれること、それから地域の皆様にお世話になることを、誰もが分かるようにしていく必要があると考えております。

具体的には、備蓄倉庫をみても備蓄品は少ないです。では学校はどうするのか、地域はどうするのか、そして避難してこられた地域の皆様に対してどうするのかを具体的に、出来るだけ早く詰めていく必要があります。今日は自治連の役員の皆様とですけれども、これを機会に各小学校と周辺自治会との協議が進んでいけたらと思っています。本日はよろしくお願い致します。

### ●参加者自己紹介

#### ●自治連の現状紹介……………小野 自治連会長

市で避難所運営マニュアルを作成されていますがまだ先生方でご覧になってない方もいるのではないかと思います。避難所運営に関して、非常に非現実的な内容がたくさんあります。それぞれのブロックや自治会、小学校と中学校も含め、行

政と一緒にあって避難所運営マニュアルを時間かかるかもしれませんが、現実的な内容にしていけないといけないと考えております。

我々が今気にしていますのは、第一番目は平成24年4月にでました都の被害想定で、死者の数も非難の対象の数も増えました。昭島市として都の被害想定を受けての対応は、もう少し時間かかるようですが、これをベースにもう1度、各種の災害関係のマニュアルは見直しが必要になります。

それで、自治連としては減災活動として“自助”を最重要と考え、10月に『各家庭で防災グッズを備えよう！』（添付資料③参照）のパンフレットを、自治会加入全世帯に配布し、家庭内で話し合ってもらって、3日分の生活必需品は各家庭での備蓄を推薦していきたいと思っています。

それともう一つの自助の基本は「家具転倒と落下防止」です。災害発生時、まずは自分の身を守ることが重要で、この事を大人にも子供にも教育していくことが大切だと思います。

学校内については着々と準備が進んでいるようですが、一般家庭はまだまだそういう状態ではありません。是非、これらの状況も含めこれから取り組んでいきたいと思っています。

それらを前提に今、自治連が一番力を入れなければいけないことは『防災隣組の構築』です。これは共助ですが、大きなスケールではなく、4軒～6軒を1つの単位(班)として、近所による助け合いを主眼にやっていくような、仕組みをできるだけ早く作っていききたいと思っています。

自治会連合会の現状を報告させていただきました。今日は色々ディスカッションしていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

### <参加者の意見交換>

●小学校) 一番気になっているのは、市の対策本部と各一時避難所の指揮系統が、どうなっているのかです。例えば学校の場合、児童と保護者がいまして、それから地域住民が混在した場合の指揮

系統の問題です。そのことを明確にすることが混乱を防ぐ、第一歩だと思います。災害でいざという時は、どこが発信をするのかっていうところが要なのかなと思っています

●自治連) そのことは我々も一番心配しています。避難所の指揮系統等の運営について、学校・行政・地域の話し合う場が現在ありませんので、自治連からも今、市の防災課に話はさせてもらっています。

●自治連) 今、拝島中学と防災連絡協議会を立ち上げて協議していますが、学校長と意見交換の中で、先程の指揮系統の話がでました。学校は、教育委員会から指示命令がされるのか、市の防災課からなのか明確になっていないようです。

●自治連) 地域の自治会の防災リーダーに、自治連として防災ヘルメットを平成23年10月にお配りしました。このグリーンのヘルメットをかぶっている方が地域のリーダーです。行政をはじめ警察、消防にもこの件は徹底させていただいております。ただ災害は昼間や夜間、また休日といろんなパターンがあります。



校長先生にお聞きしますが、各小学校に市から2人ずつ派遣される人が決まっていますが、顔と名前の一一致されている方、ちょっと手を挙げて頂けますか。(数名の校長先生のみ挙手) はい、ありがとうございます。実は私自身も、近隣の小学校の担当者は分かっていません。これが小学校と地元の自治会の現状だと思います。

それと地元の学校の体育館と防災倉庫の鍵を市から預かっている方が学校単位に一人います。誰が所持しているかご存知の先生は、手を挙げてもらってもいいですか。(挙手なし) 今後、避難所別の運営協議会の設置が急務と考えています。実は他市の方と防災について話し合う場がありましたが、多くの地域は学校単位設置されています。

●小学校) 自治会の皆様は、ブロック単位とお考

えがあるかと思いますが、預かっている児童やその保護者ということを見ると、もう少し該当エリアを考えなければいけないですね。

避難所運営についても、やはり定期的になんらかの形で、顔合わせて話し合う必要はあると思います。

●小学校)今年初めて地域の皆さんと学校の引き渡し訓練と合わせて、自治会との共同防災訓練を致しました。それまで持ってくるのに、半年かかりました。初めは自治会にも温度差もありましたがその間いろんな意見がでました。誰が指揮をとるのか、自治会の方が学校の現状を知っているだろうか、PTAの皆さんはよく分かっている。いくら自治会の防災リーダーといっても学校のこと(教室の配置や設備)を知らないのが現状だと思います。そこで、今回の訓練は学校に集まってもらって所定の経路を通過して体育館に逃げる訓練と、開放すべき施設の案内をしながら、実際に誘導する訓練を実施しました。また来年度も地域と学校で災害弱者、障がいの方とか、独居老人とかの様々な人も集っての総合的な防災訓練をしていこうという話になっています。

ただ、学校の災害時受け入れ可能な人数には限界があります。周辺の小学校、中学校との避難のエリアを学校間と自治会間の連携ですみ分けをしないとやっていけないと思います。



●自治連)自治会の役員といっても、学校の現状知っているかどうかは、詳しく知らないのが現実ですね。昨年、地域としても周辺自治会と合同防

災訓練を実施し、通常の消火訓練等はないので、皆で学校を知ろうということで校舎内に入り、トイレがどこにあるのか、非常時はこの教室が本部になるのだとかをやりました。

●自治連)学校間また自治会間の連携ですが、市立小・中学校学区図〔参考資料：当冊子裏面参照〕をご覧ください。自治連役員といえども小学校、中学校の配置図が頭に入っていない。一つの自治会でも小学校が二つの校区の場合もあります。

●小学校)地域のことを一番知りたかったので、役所の方からこの地図をもらいました。

PTAの役員の皆さんは若い方が多くて自治会に入っていない方が非常に多いことが気になります。自治会のことを聞いてもよく分かりませんとの返事が返ってきます。また、周辺自治会ですがどこの自治会が本校に避難してくるか知りたいところです。

●自治連)それが現状ですね。また、どこが避難してくる等は、至急に避難所別運営協議会を立ち上げる必要があります。

●小学校)6月に地域のコミュニティ協議会と連携して防災訓練を実施しましたが、各自治会の参加者が10名前後で少なかったですね。自治会の方も実際災害時には何名非難するのか、何処に避難したかの把握は出来ない状況にあるということをお話されていました。

●自治連)市はどこへ避難しても結構ですと話しますが、自治会的には問題で、原則エリア別に避難場所は指定したいと考えております。

●小学校)自治会長さんに集まって頂いて、緊急時の避難について話し合いましたが、避難所が不明確でした。ですから把握することがとても難しいというお話でした。

●小学校)避難場所、緊急連絡先、持ち出し品等のパンフレット配られていますが、各家庭にアンケートをとって調べてみましたが、「今まで全然意識してなかった」とか、「初めて考え

た」というような家庭もありました。

学校を開放して、避難訓練を実施することは、各自治会でも意識を高めていくこととなります。今後、一つ一つ地域と連携していくことから始めたいと思います。

●自治連)避難所についての意見が色々出ていますが、防災のアンケートの中で、“避難場所を家族で決めているか”との質問に、なにも決めていない方が、30%いました。周辺に三つの学校の避難所があり、どこに避難するかを家族と決めておくことは、非常に大事なことです。

避難所別の協議会をスタートさせて、ある程度ブロックの区割りと小学校の校区も含め広域的に考えて、避難所の指定を調整していかないといけないと思います。勿論、行政も当然入って頂かないと出来ないので、自治連としてシリアスに考えております。

●自治連)先程、PTAの役員が自治会に入っていない人も多というお話もありました。10月完成予定の防災パンフレットを小学校の児童全委員に配布したいのですがいかがでしょうか。

●小学校)全然問題ないです。お受けします。

●自治連)地元の学校が大変熱心で、昨年度から防災に関係のある委員会を、立ち上げて進めて頂いていますが、自治会や学校からの意見交換で、次のステップになかなかならない。避難場所をどのように決めるのか難しいですね。

学校の避難場所に、自治会員、未加入者、他地域の方等、いろんな方が来た場合、学校側でなく、自治会の方々の力が一番大きいと思います。

体育館と倉庫の鍵を委託されている方は、殆ど旅行にもいかない、出掛けないようにして、常にいつでも対応出来るようにしているなどとお話しをされています。大変ですね。

●自治連)まだ、お話になっていない校長先生、ひと言ずつお願いいたします。

●小学校)地域を巻き込んで、防災訓練を学校でやっていくというお話を聞いて、本校でもやりたいと思い、自治会の方にお声をかけましたが、関

心がなくて、実施できませんでした。全市的に学校と自治会が避難所の会議を持てればありがたいと思います。

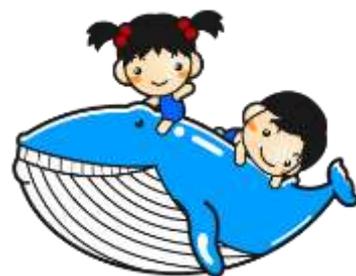
●小学校)学校に避難してくることを想定するのはなかなか難しいと思います。自然災害の中で、水害問題を抱えているので、避難者の受け入れは難しく、地域の状況を考慮した防災時の避難拠点を考えた方がいいと思います



●小学校) 拝島第四小学校、田中小学校、多摩辺中学校、福島中学校、共成小学校の五つが、**多摩川洪水ハザードマップ**の水害の際、該当していますが避難場所になっています。そのことを結構防災課の方に話したのですが、直っていないので、自治連からも話をして頂けると助かります。

●小学校) 9月の第1土曜日に地域と訓練を実施しました。私も初めての経験でした。収容人数の件で、防災訓練の時のことだけをみても、沢山の方に参加頂いていますので、施設的には十分なスペースが足りません。周辺の小学校とかとの繋がりを進めていかなければと感じました。

●小学校)昨年度から自治会の防災訓練と学校と一緒にというような話を少しずつ進めてきています。今年度はPTAの防災担当と自治会の防災訓練とを実施させて、子供達と保護者と地域ということで進めてきました。もう少し組織的にこれから進めていくような状況を、つくっていかなくちゃいけないだろうなって思ってい



ます。

●小学校) 私は4月に赴任してきたものですから、詳しいことはよく分らないのですが、それぞれの地域、学校だけでやっていくよりも、市全体として推進してほしいと思います。

備蓄倉庫のものは、昼間起きれば子ども達を守ることを優先したい。昼間の時は水と最低限の少しの食料は、児童の為に確保する為には、どうしたらいいのか、私自身もよく分らないので、どんどん意識を高めていこうと思っています。

例えば我が小学校にどのくらいの人が押し寄せるのか、それだけ知っとくだけでも、少し対策が考えられるのかなと思います。これから少しずつですが、進めていかなきゃいけないかなと思っています。

●小学校) 防災時の収容人数423名と出ています。自治会の運動会時は900名くらいの方が参加しますので、パンクするのではないかと心配しています。地域との連携は、これから進めていこうと話になっています。地域の高齢化が進んでいるので、地域と連携を取り、それらの方の対策を協議していきたいと思っています。

●小学校) ハザードマップでは水害の可能性があるとということになっていますので、水害で周りの方が避難してくる可能性は高いと思うのですが、実際に避難所になった時に、そこを運営する組織がしっかりとしたノウハウを持つ必要を感じます。あと、動ける人の用意も必要で対象は、中学生ではないかなと思っています。高校生の多くは

昭島意外に通学して昼間はいません。中学生は地域にいます。小学生は難しいですね。中学校の



校長先生方とお話をなさる時には、中学生をどう地域で活躍していただくかをお考えになってみたらいいなと思います。



●小学校) まだ組織的にも役割分担的にもこれからどんどん煮詰めていかなきゃいけない状況にあります。多摩川沿いですので、ハザードマップをみますと、校舎は3階建てなので、水色のなんか、色分けでいくと完全にあそこら辺に水がくるなっていることですので、避難訓練を毎年同じような形でやるわけではなく、直そうということで、昨年度末には、奥多摩街道沿いまで駆け上がる訓練をやりました。

●小学校) 地域に意志の高い方々がいらっしゃいまして、非常に心強く思っております。周辺自治会と昨年度は全体避難訓練を行いました。その時は、学校にきてトイレの確認とか教室の確認をしていました。その時に初めて学校がこういう避難所になって、体育館をはじめ各施設が実際どうなるかとか、あるいはプールが洗濯物の干場になるとか、あとは自炊するところはどこかとか、色々な場所がその時初めて分かりました。それ以外、先生達もなにかあった場合は、こういう避難所の体系になるということがお知らせしたのですが、やはり常にそういう地域(自治会)と連携していかないといけないなと思いました。そういう意味ではこのような会を継続的に開催出来ればと思います。ありがとうございました。

●自治連) 先程、中学校とも連携が大事だとのお話がありました。我々もそう認識しています。地元の中学校が10月に防災訓練を予定していますので、その日に地域も合流しましょうということで、今回は参加し中学校の防災訓練を見学させていただくことになりました。先程校長先生も話されていましたが、第一は『児童の安全をどう守るか』です。その為に地域と学校がお互い連携を取っていきたいと思います。2番目は『小学校を避難所とする場合、どう運営していくか』です。これらをベースに今後話し合いを進めていきたいと思っています。

●小学校) 各学校でそれぞれ色々事情が違うというところなので、各学校で進めることを皆で共有していくということかなと思います。是非また次回に繋がるようにしてまいりたいと思います。ありがとうございました。

### ■締め挨拶 小野会長

いろいろと沢山の課題を今日は出していただきました。これも一つずつ、これから一緒に取り組んでいきたいと思っています。

また多くの方から、このような会議は続けていきたいというようなご希望もございました。年に1度はやっていった方がいいのかなと感じました。それから、是非小学校で避難訓練をやられる場合は自治会に声をかけて下さい。自治会も多分声がかかるのを待っている所も、あると思います。

地域活動の中心拠点はやっぱり小学校、中学校になります。自治会連合会としても、近隣の小学校との連携を大事にしていきたいと思っています。これからもよろしくご指導お願い致します。ありがとうございました。

以上



交流会終了後の記念撮影